100の一歩

#60 市営交通100周年を振り返って

その新型車両は、関西から3日間かけてやってきました。ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。ブルーラインにとっては28年ぶりとなるリニューアルに、愛好家の皆様も大歓迎。沢山のカメラに迎えられて、深夜の搬入はお祭りのようでした。

無事に検車庫に収め興奮が静まると、最後に担当者が「搬入はイベント。でも僕らの仕事はこれからです。」

車両課と検車区の仲間たちはこれから3か月、寝る間も惜しんで、メーカーの方々と共に綿密な検査と試走、加速や減速などの調整を繰り返し、「車両」は徐々に、「市営地下鉄4000形」へと仕上がっていきます。営業運行や保守点検に支障が出ないよう、スケジュールの乱れは許されません。

車両のセットアップが済めば、次は運転の出番です。運転士の習熟運転を繰り返し、5月のデビューまで、さらに1か月以上をかけて準備します。 更に安全で快適な車両の提供をめざして。
車両の更新は、お客様サービス向上のための、一つのステップなのです。

市営交通100周年は、私たちにとって改めて日頃の仕事を振り返る節目であるとともに、次へと向かう一つのステップでした。100周年イヤーを終え、私たちはこれからも毎日、より良いサービスを探りながら歩み続けます。一歩一歩、コツコツと。

市営交通100周年プロジェクトは今月で終了です。1年間ありがとうございました。
来年は5月のブルーライン新型車両4000形デビュー、夏頃グリーンライン6両化、そして12月の市営地下鉄50周年など、沢山の話題をお届けしてまいります。お楽しみに。

※撮影時のみマスクを外しました。

100の一歩

#59 市営バスからのプレゼント

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、滝頭営業所による、イルミネーションバスを使った『プレゼント』をご紹介します。

滝頭営業所では、近隣にある東滝頭保育園の皆様を営業所に招待しました。クラスごとにイルミネーションバスに乗車後、洗車機の中へ。巨大なブラシの中を通過する風景に、園児の皆様は興奮気味に窓に張り付き、外を見ていました。その後、「バスのお医者さん」である整備工場前に停車。大きなバスが2m近く持ちあげられて整備している様子を、車内から目で追う様子は、まるでサファリパークの動物を見ているよう。バスへの興味は尽きず、「バスはいくらするんですか？」などと様々な質問がありました。
こうした市営バスからの『プレゼント』を、保育園の皆様がたいへん喜んでくださり、営業所としても地域の皆様に良いお返しができたと感じました。

滝頭営業所では、イルミネーションバス1両（0-1725号）が、所管路線の全てを順番に運行しています。乗務員による手作りヘッドレストカバーや、営業所職員の家族が協力して作成したクリスマスの絵を掲出し、車内を装飾しています。運行期間は12月25日（土）までです。
24日(金)にはサプライズプレゼントがもらえる可能性も！ぜひご乗車ください。

100の一歩

#58 防火設備誤作動のリセット訓練

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は関内駅の取組をご紹介します。

市営地下鉄の駅構内には、火災発生時に被害を最小限に防ぐための「防火扉」や煙を外に逃がすための「排煙機」、煙を抑えて外に逃がす手伝いをする「垂れ壁」といった防火設備を設置しております。

関内駅では、幸いにも防火設備を使用する事態は起こっていませんが、排煙装置のスイッチを誤って押してしまった時に、作動する事があります。天井からは、煙の広がりを抑える垂れ壁が下がり、通路の左右から自動的に防火扉が出てきて、行き先を塞ぎます。

防火設備が作動した場合、直ちに駅職員が、火の気がないか駅構内を確認します。誤作動の場合は、お客様の不便を最小限にするため、迅速にリセット作業に取りかかります。防火設備は自動では元に戻らない設定となっているため、職員が一つずつ手動で元に戻します。また、防火扉の一部を開錠し、行き止まりになってしまったお客様を案内する場合もあります。
リセット作業とお客様の案内を職員全員が迅速・的確に行うことが必要です。

設備を熟知するため、営業時間終了後、実際に防火設備を作動させ訓練を行いました。機器の操作方法、設置装置の場所等を念入りに確認し、防火扉の鍵を開けてお客様の誘導の導線を確認し、扉や垂れ壁を手作業で元に戻しました。 防火設備が作動した場合でも、誤作動の場合でも、様々な「いざ」に備えています。

1976年からみなさまにご利用いただいている関内駅では、横浜今昔物語と題し、横浜スタジアム側改札内で写真展示を行っています。横浜市内の現在の風景と昔の風景を比べると、古き良き昭和時代の懐かしい思い出がよみがえります。関内駅をご利用の際には、ぜひお立ち寄りください。

横浜今昔物語

100の一歩

#57 地域と一緒に交通安全

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は市営バス港南営業所の取組をご紹介します。

港南営業所では、地元の保育園児を対象に、交通安全教室を開催しています。バス営業所の敷地内で、横断歩道の安全な渡り方や、バスの乗降方法、車内マナーについて、実際のバスを使って実践的に学んでもらっています。園児の皆さんの交通安全を願うとともに、バスを身近に感じてもらい、「将来の市営バスのお客様」になってもらえるよう、紙芝居なども使いながら優しく丁寧に伝えています。

また、中途障害者地域活動センターとも連携し、外出支援を目的とした乗り方教室も行っています。こちらも実際にバスを使って体験していただいています。参加された方からは、「バスを利用することに少し自信が付きました」、「無理だと思っていたことや怖くてできなかったことが、私にもできるんだと思いました」といった嬉しいお声をいただいています。

地域の皆様や子どもたちと交流しながら、一緒に交通安全に取り組むことは、バス乗務員・営業所職員にとっても、様々な気付きを得られる貴重な機会です。地域の皆さまの笑顔をお運びする仕事に誇りを持って、今日も安全運転を続けます。

100の一歩

#56 横浜駅の一日の始まり

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、横浜駅での一日の始まりについてご紹介します。

横浜駅は横浜市営地下鉄の駅の中で1番乗降客数が多い駅で、一日平均約10万人のお客様が利用します。
そんな横浜駅の一日の始まりは点呼から始まります。
お互いに身だしなみをチェックしあい、制服の着こなしと心を整えて、職員が駅事務室に集まります。助役の号令後、職員は敬礼。一人ずつ、今日の担当業務、氏名及び健康状態を申告します。

その後、助役から前日の収入金等の引継ぎや、他社線の運行状況や周辺イベント情報などの情報が共有されます。
さらに副駅長・駅長から、お客様の言葉や、気をつけるべき注意点などが報告されます。「案内が分かりやすかった」などのお客様の言葉を聞くと、今日も頑張ろうと気持ちが高まります。

そして、助役による本日の宣言で今日の業務に関する注意喚起の後、駅務員は「お客様に親切丁寧に対応します！」等と各個人で設定した業務における行動目標を宣言します。
最後に、経営理念及び安全方針を唱和し、「おはようございます」「ありがとうございます」などの基本のあいさつを確認の上、業務に入ります。
24時間勤務のなかのわずか10分ほどの時間ですが、点呼の時間は駅業務において、今日という一日をしっかりスタートさせるための一番重要な時間です。

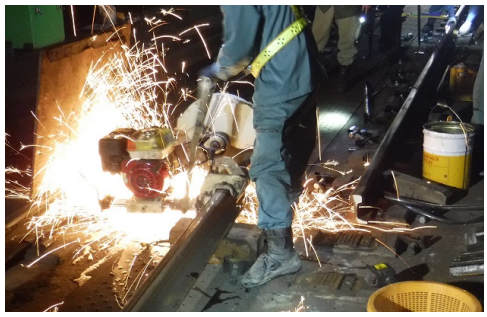
今日も、事故やトラブルが無いことを願いながらも有事に備え、当たり前の毎日を守り、お客様が安心して地下鉄をご利用していただけるよう、業務にあたります。

100の一歩

#55 レールのお手入れは深夜に

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、レールのメンテナンスについて工務部施設課からご紹介します。

市営地下鉄ブルーラインの湘南台からあざみ野までの営業キロは約40㎞ですが、その線路に敷かれたレールの長さは上下線で総延長約160㎞となります。レールは、25mで製造されたレールだけでなく、時には短く切断したレールを溶接したり、継ぎ目板とボトルでつないだりしています。その本数は約7,000本にものぼります。



施設課ではレールの補修計画や交換計画を立て、メンテナンス工事を発注し線路の維持管理を行っています。

毎日の列車の通過で、レールは少しずつ摩耗していきます。通過した列車の重さや回数などにより、状況が異なるため、区間ごとにレールの健康を診断し、概ね30年～50年を基準に全線のレールの交換時期を決めていきます。

しかし、列車の走行を重ねると、振動の原因となるすり減りやレール表面に傷が発生するため、メンテナンスを繰り返しながらレールを再生し、交換時期まで大切にレールを使います。
原則としてレール交換は、運行が終了した夜間に行われます。レールを切断、取り外し、新しいレールを挿入し接続。念入りな検査を行って完了となります。始発運転開始までの作業時間は３時間もなく、限られた時間の中で、てきぱきと作業を行います。

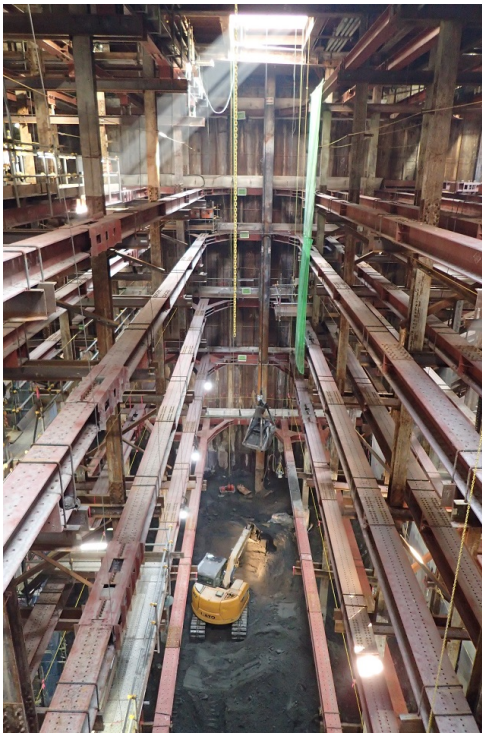
地下鉄が開業して49年。安全な運行を支えるメンテナンスに終わりはありません。

100の一歩

#54 今日も一日ゼロ災でいこう！

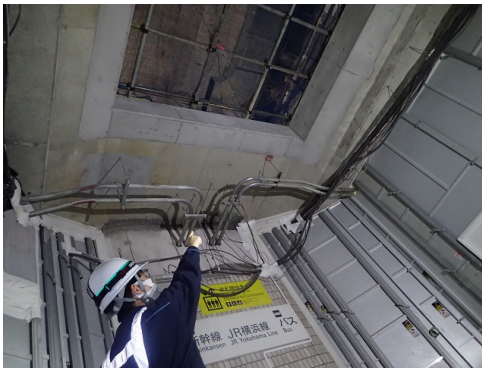
横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、新横浜工事事務所から安全の取組についてご紹介します。

新横浜駅の地下では、どんな工事が行われているかご存知ですか？
現在、相鉄・東急直通線の新しい駅をつくる工事が行われており、新横浜工事事務所では、ブルーライン新横浜駅の真上や真下にあたる場所の工事を監督しています。



交通量の多い環状２号線の新横浜駅前交差点であり、しかも大規模な円形歩道橋の真下という厳しい条件の中、地下にあるブルーライン新横浜駅を仮の杭で支えながら、駅の下に新しい駅をつくるといった、土木学会賞や地盤工学会賞を受賞するほどの難しい工事ですが、工事中であっても毎日、時刻表通り安全に列車を運行させ、お客様にも影響を与えずに工事を行っています。

工事中、安全の確認は欠かせません。
「駅に異常はないか」「現場に異常はないか」など毎日データを確認するとともに、「危険な作業をしていないか」「機械が倒れそうになっていないか」など毎日パトロールも行っています。
さらに、台風や大雨の到来前には、資材が飛ばされたり、フェンスが倒れたりしないよう、緊急パトロールも行います。
こうしたパトロールを通して、危険の芽を事前に摘むことで、工事が始まってから3,000日以上、ゼロ災害を続けています。



現在は、ブルーライン新横浜駅に新しい改札口をつくる工事などをおこなっており、まだまだ気が抜けません。これからもゼロ災害を続けていく思いを込め、毎日の朝礼で、全員で唱和しています。
「ゼロ災でいこう！ヨシ！」

撮影時のみマスクを外しています

100の一歩

#53 レール研磨で乗り心地を快適に

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、レール管理の取組について川和保守管理所施設区からご紹介します。

毎日約200トンの車両が繰り返し走行するレール。グリーンラインのレールの状況は、毎日の営業運転終了後、歩いて行う線路巡回点検時に目視にて確認します。また、営業列車走行中の音によって異常が見つかる場合もあります。

レールの表面には、波を打ったような状態（波状摩耗）や偏摩耗、軽微な傷や割れ等が発生します。このようなレールの上を列車が走行し続けると、乗り心地が悪くなり、騒音が発生するほか、レールの耐久年数を下げ、道床の劣化が進む原因となります。

この摩耗や傷、割れ等を取り除くため、定期的に大型保線用機械「レール削正車」を走らせ、レールの研磨作業（削正作業）を行っています。
点検等で地道に集めた情報を集約し、他の作業等も踏まえ、レール削正車を走らせる計画を立てます。

レール削正車を1回に走らせる距離は200m。取り付けられた砥石等が傷んだレール頭部を高速回転して削ります。丸みを帯びたレール上を、角度を変えながら10往復、火花を散らしながら少しずつ削っていき、新品レールの形状に近づけるように整えていきます。レール削正が終了した後のレールには輝きが戻ります。削られた鉄粉はレール下に落ち、作業後、水で洗い流します。

レール削正作業は、今あるレールを長持ちさせるため、重要な作業です。また、なめらかなレールを走る車両は騒音も少なく、乗り心地も向上します。
快適な地下鉄の乗り心地を体感してみてください。

高速グラインダーで削正後のレール

撮影時のみマスクを外しています

100の一歩

#52 マスタードライバー直伝の接遇

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、バスの新採用乗務員の接遇研修についてご紹介します。

バス乗務員は安全・確実・快適な運行の提供を使命としています。このためには、運転技術だけではなく、接遇意識を高めることも重要です。

横浜市営バスでは、新採用乗務員に対する接遇研修の講師を、長らく外部講師にお願いしていましたが、このほど、「マスタードライバー」である現役乗務員が務める取組をはじめました。

「私たちはお客様の時間もお預かりしているのですから、時間をかければ良いというものでもなく、簡潔さ・素早さも重要なのです」
「よくお客様を見れば、そのお客様がどんなことを求めていらっしゃるのかが想像できます」

普段の心構え、マイクアナウンスのコツ、実際に使用しているフレーズなど、専用のテキストにも書かれていない体験談を惜しげもなく伝えています。お客様から温かい言葉をいただいたエピソードを伝えたときの受講生の目は、期待に満ちて輝いていました。

教壇に立つ乗務員にとっても、乗務の合間に準備して臨むのは相当な苦労があります。しかし、同僚講師と切磋琢磨し励まし合い、また受講生に思いが伝わることは喜びでもあります。
教えたからと言ってすぐに同じようにできるわけではなく、習得するまでに長い時間がかかりますが、接遇の芽を少しずつ植えて育てています。

100の一歩

#51 転てつ器手回し訓練

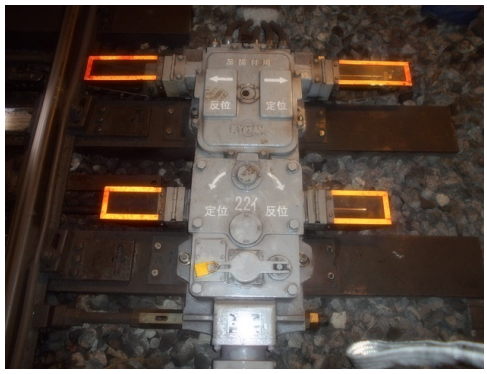
横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、転てつ器手回し訓練について湘南台駅からご紹介します。

通常はプログラムによって機械的に動作していますが、万が一、機器トラブルが発生し動かなくなってしまうと、手作業で転てつ器を操作し進路を構成させ固定する作業、「鎖錠 (さじょう) 」をしなければなりません。その「いざ」に備えて駅では「転てつ器手回し訓練」を実施しています。

訓練は、実際の線路を使うため、営業終了後、線路の送電が停止してから訓練に取りかかります。状況によっては工事関係車両の通過もあるため、見張り役を立て点滅灯を設置し、安全ベストを装着し安全確保したうえで訓練に臨みます。

現場に到着すると転てつ器の制御電源を切り、手回しハンドルを使って手動で任意の方向に回し、レールを進路の方向に動かします。その後、通常は電気で固定されている、転てつ器付近のレールを手動で固定します。鎖錠金具をレール下のわずかな隙間からくぐらせ、レールの両側に金具をかまし、両側からぐっと締め上げレールが動かないように頑丈に固定します。薄暗いトンネル内での、鎖錠金具の取付けはコツが必要で、訓練の重要な部分です。

この訓練を繰り返し行うことで「いざ」に備えて、知識・経験を身に付けています。これらの知識・経験を活かし、安全を職員一丸となって提供していきます。



転てつ器操作部

転てつ器手回しハンドル操作

鎖錠金具取付け